

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



8月の黄土高原スタディツアーは17名が参加。代王城鎮ではイオンリテールワーカーズユニオンのみなさん、現地のボランティアと一緒に植樹活動に汗を流した。

Contents

- 夏季寄付のご報告 P 2
- 張家口探鳥ツアー参加者募集 P 2
- GEN 自然と親しむ会のご案内 P 3
- 黄土高原スタディツアー写真報告 P 4～5
- 大同緑化協力 25 年の軌跡 P 6

2019.9
189

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

ご参加ください 運営懇談会

2019年度の運営懇談会の日程は下記のとおりです。都合をつけてご参加いただくようお願いします。詳細は次号でお知らせします。

【大阪会場】
○日時：12月7日（土）13時30分～16時30分

○会場：大淀コミュニティセンター第3会議室（〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2 大阪メトロ谷町線・堺筋線「天神橋筋六丁目」駅11番出口より徒歩8分）

○終了後、会場近くの店で懇親会をおこないます。

【東京会場】
○日時：12月14日（土）15時～18時ごろまで。運営懇談会に先立ち、13時30分～高見副代表による蔚県の現状報告をおこないます

○会場：立教大学池袋キャンパス 人文研究センター室 ロイドホール（図書館の建物）5階L520室

○終了後、同会場で懇親会をおこないます。

参加者募集

黄土高原スタディツアー 報告会のお知らせ

2019年8月の黄土高原スタディツアー報告会をおこないます。中国でのさまざまな出会い、体験について語り合う場をもうけ、想いを共有したいと思います。

過去のツアーにご参加いただいた方、ツアー体験のない方もどうぞご参加ください。

○日時：10月22日（火・祝）13時30分～16時30分

○会場：エル・おおさか（大阪府立労

働センター）会議室501（大阪市中央区北浜東3-14 tel. 06-6942-0001 大阪メトロ谷町線「天満橋」駅2番出口14番階段／京阪電車「天満橋」駅東口14番階段より西へ300m）

○参加費：無料

○定員36名

○申込み：GENまで（必須ではありませんが、参加人数把握のため、できれば事前にお知らせください。）

○終了後、懇親会をおこなう予定です。

夏季寄付のご報告

夏季寄付にたくさんのご協力をいただき、どうもありがとうございました。寄せられたご寄付のお礼とご報告です。

7月20日から8月31日までにお寄せいただいた寄付は1,393,692円、43件でした。昨年同時期の寄付が856,978円、61件でしたので、この時期の寄付としては昨年より件数は減少しましたが、大口の寄付が寄せられたこともあり、金額は増額しました。

4月からの累計のご寄付は12,222,501円、93件となり、今年度寄付予算の850万円の143.8%に達しました。みな

さまのご協力に大変感謝いたします。こちら一般社団法人大阪市RR厚生会の解散にともなって大口の寄付をいただいたことが大きく、それがなければ予算比30%ほどです。大口のご寄付がいただけることはまれなことで、今後もGENの財政状況が厳しいことに変わりはありません。蔚県での協力は3年目になりますが、木を植えて育てるにはまだまだ時間がかかります。無理のない範囲でけっこうですので、引き続きみなさまの協力をいただきますようお願いいたします。

張家口探鳥ツアー 参加者募集

高田直俊先生、大西敏一先生が同行する野鳥調査に参加しませんか。11月は北から南に移動する渡り鳥の観察が期待できます。少人数でも催行します。

締切間近ですので関心がある方はお早めにGENまでご連絡ください。

○日程：11月7日（木）～11日（月）4泊5日

○旅行代金218,000円（海外旅行保険、燃油特別付加運賃、個人行動時の費用、GEN会費が別途必要）

○申込締切：9月25日（水）申し込み時、パスポートのコピーが必要です。

○見ることが期待できる鳥：ミノキジ、シラコバト、ヒゲガラ、ダルマエナガ、カササギ、サンジャク、チゴハヤブサ、ヘラサギなど。

大阪自然史フェスティバルに 初出展予定！

大阪市立自然史博物館でおこなわれる大阪自然史フェスティバルにGENが初出展する予定です（9月中旬に出展可否が決定します）。当日お手伝いいただけるかたを募集しています。興味のあるかたはGENまでご連絡ください。

○日時：11月16日（土）～17日（日）9時30分～16時30分

○会場：大阪市立自然史博物館（大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪メトロ御堂筋線「長居」駅3号出口より東へ800m）

○主催：認定NPO法人大阪自然史センター 大阪市立自然史博物館 関西自然保護機構

○入場料：無料

○問合せ：大阪自然史フェスティバル事務局（大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪市立自然史博物館内 tel. 06-6697-6262 fax. 06-6697-6306 e-mail：fes2019@mus-nh.city.osaka.jp）



GEN 関東ﾌﾗﾝﾁ 自然観察会

夢の島熱帯植物館で 観察会

今回は自然観察指導員の小原芳郎さんの案内で夢の島熱帯植物館を訪れます。普段見ることの少ない熱帯植物を中心に植物の不思議を再発見し、その意味を考えます。

○日程：11月23日（土・祝）※雨天決行

○場所：東京都立夢の島熱帯植物館

○集合：9時30分に東京メトロ有楽町線「新木場」駅改札外（駅から植物園まで15分ほど歩きます）

○解散：14時に「新木場」駅

○案内：小原芳郎さん（公益財団法人日本自然保護協会 自然観察指導員）

○定員：先着12名

○参加費：500円（保険料として。別途植物園入館料250円が必要）

○持ち物：雨具、筆記用具、弁当（館内に喫茶室があり軽食があります。弁当の持ち込みも可。）

○問合せ・申込み：11月19日（火）までにGEN事務局、関東ブランチメーリングリストからお申込みください。申し込み後、参加確認のメールを宮下（GEN会員）から差し上げます。メールアドレス、携帯電話番号（当日の緊急連絡用）をご連絡いただくことになります。

電話番号）、参加人数をお知らせください。

○申込み締切：11月10日（日）必着

○宿泊場所：GEN 関東ブランチ宇久須 宿舎

○宿泊費・光熱費・食費込みで2泊の方は8,000円、1泊の方は5,500円

○アクセスなど 初めて参加される方は、上田までお問合せ下さい。

GEN自然と親しむ会

前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑪ 木津川沿いを歩く

暑さがひと段落したこの季節、木津川沿いでハイキングしませんか。

今秋の自然と親しむ会はちょっと足を延ばして笠置町の木津川沿いを歩きます。前中代表の解説を聞きながら、秋の自然観察を楽しみましょう。

○日時：10月6日（日）10時～14時ごろ

○場所：京都府相楽郡笠置町周辺

○集合：10時にJR「笠置」駅（駅から約3km タクシーで移動します）

○解散：14時ごろ JR「笠置」駅

○案内：前中久行さん（GEN代表）

○参加費：500円（保険料を含む。タクシー代が別途必要です）

○定員：15名程度

○持ち物：弁当、飲み物、敷物、雨具、帽子、ハイキングできる服装・靴、あれば植物図鑑

○問合せ・申込み：10月2日（水）までに氏名、連絡先、生年月日をGEN事務局までお知らせください。

※小雨決行

参加者募集

GEN自然と親しむ会

無煙炭化器を使った炭焼きとバーベキュー

GENの恒例行事となりました、無煙炭化器を使った炭焼きとバーベキューを開催します。シンプルながら1～2時間で簡単に炭が焼ける無煙炭化器を使って炭作りをしながら、ついでに焼き芋やバーベキューをいっしょに楽しみませんか。

○日時：11月24日（日）10時～15時ごろ

○場所：西宮市武庫川河原（JR 福知山線「武田尾」駅付近）

○集合：JR 福知山線「武田尾」駅に10時

○持ち物：バーベキューの食材を各自持参、飲み物、敷物、食器（お皿、お椀、お箸など）作業のできる服装と靴、軍手

○参加費：500円（保険料を含む）

○定員：20名

○問合せ・申込み：11月20日（水）までに氏名、連絡先、生年月日をGEN事務局までお知らせください。

※雨天の場合は中止

参加者募集

GEN 関東ﾌﾗﾝﾁ 西伊豆秋合宿

恒例の西伊豆秋合宿を今年は少し時期を遅らせて開催します。

柴山での緑化プロジェクトの調査と合わせ、今回はとなりの松崎町に足を伸ばし、江戸時代に建てられた旧依田邸を訪ね、明治時代に北海道開拓事業の礎を作った依田勉三の足跡を訪ねます。同時に依田兄弟の師であった土屋三余の三余塾の資料館も訪問いたします。

いつもとはちょっと風情が異なる晩秋の西伊豆を楽しみましょう。

○期間：2019年11月15日（金）17時ごろ宇久須の宿舎集合～11月17

日（日）12時ごろ現地解散

○作業スケジュール：

11月15日（金）懇親会

11月16日（土）午前 鉾山跡地での「柴山緑化プロジェクト」観察。午後 松崎町旧依田邸訪問。夜は、芋煮会で盛り上がりましょう。

11月17日（日）サトイモ、落花生を好きだけ収穫して発送。

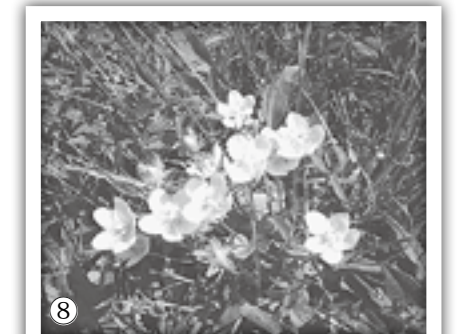
○問合わせ・申し込み：電子メールにて下記まで。上田信（ueda@rikkyo.ac.jp）件名「西伊豆秋合宿申し込み」とご記入ください。代表者氏名と連絡先（電子メール、当日利用の携帯

黄土高原スタディツアー 写真報告

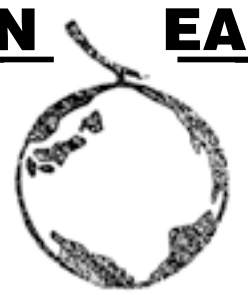
今年は8月21日～9月3日の日程で専門家派遣（4名）、8月24日～30日の日程で黄土高原スタディツアー（17名）、8月24日～26日の日程でイオンリテールワーカーズユニオンツアー（25名）がおこなわれました。今号ではツアーのようすを写真でご紹介します。



今年の GEN ツアーは蔚県、大同を訪問しました。8月24日、空港からバスで蔚県へ移動し、夜は蔚県名物の打樹花を鑑賞しました。25日、朝食前に市場を見学。（写真①）。午前中は代王城鎮で現地のボランティアと一緒にマツを植えました（写真②）。



（④）（⑦）。作業のあとのスイカの味は最高（写真②）。植樹記念の集合写真（写真③）。午後は西窑頭村を訪問し、村の人といっしょに東京音頭を踊ったり、太極拳をしたりとにぎやかに交流しました（写真④⑤⑥）。26日、午前中は蔚州郷土樹木園を訪問し、植樹と見学をおこないました（写真⑨⑩）。午後、イオンリテールワーカーズユニオンの団は北京へ移動し、GEN ツアーは蔚州古城、切り絵の村を見学しました。27日、飛狐峪と空中草原で色とりどりのお花を観察したあと（写真⑧）大同へ移動しました。28日、大同で雲崗石窟、緑の地球環境センター、采涼山、カササギの森を見学。采涼山のマツは立派な森に成長していました（写真⑪）。29日、靈丘県の南天門自然植物園を訪れました。木が生い茂り、見学路を覆うほど成長していました（写真⑫）。30日、靈丘県からバスで北京へ移動し、無事帰国しました。



大同緑化協力 25 年の軌跡

わたしたちの協力拠点が植物園に

GEN の山西省大同市での 25 年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で 15 回目です。（高見邦雄）

今回の大同滞在中にあった、ウソのような、ホントの話。

日本大使館の担当者がかつての協力プロジェクトに案内していた王萍さんが写真を送って寄こしました。口泉植物園のなかに「友好苑」ができ、大きな石にそのいわれが彫られているそう。

前中久行代表などといっしょにさっそくでかけました。この植物園は私たちの以前の協力拠点・環境林センター（大同市南郊区平旺村）を中心に、隣接地の砒区苗圃などを統合し、67ha の広大な面積を有します。2011 年からの 5 年間に 1.6 億元（およそ 27 億円）を投じたそうで、ちょっとぜいたくな市民の憩いの場です。

友好苑は植物園の中心部、かつての協力拠点の管理棟があったところで、それを示す記念碑は高さ 2m × 横幅 3m 強の自然石で、表には「友好苑」のほか、日本語と中国語で「環境は国境はない」と彫られ、裏面には中国語でつぎのような説明があります。

「友好苑は元の中日協力育苗基地を基礎につくられた。この育苗基地は日本の友人が 1994 年に建設したもので、面積は 13.7ha、各種の喬木灌木 100 万株余りを育てた。2010 年、砒区政府が口泉植物園を建設するとき、日本の友人はこの基地を無償で提供した。苑にある 3 本の枝垂れ榆はその当時植えられたもので、いまも枝葉を繁らせ、深緑に輝き、景観に趣を添えている」。

ほら、管理棟の中庭にあったあの木ですよ（そのときは 4 本）。傘のように広がった枝葉の下で食事をし、ときには木登りして遊んだでしょ。

私たちが訪れたとき、20 名近くの男女が記念碑の前で記念写真を撮っていました。地元の学校の同級生で、いまはみな定年退職したそう。私たちがここを拠点に、大同の緑化に協力していたことを話すと、口々に感謝の意を表しました。そこでいっしょに記念撮影。

「地元って？」私が尋ねると、砒務局だそう。「えっ、じゃあ、支樹平さんを知ってるでしょ？」。そのなかの中心人物が驚き顔で、「知ってるもなにも。彼が砒務局の共青团書記をしているとき、私は事務室の主任でした」。そこでまた盛り上がりました。私たちがこの協力活動をはじめたとき、支樹平さんは共青团山西省委員会の書記で、中国側の責任者でした。その後、党の組織部長になって環境林センターを視察したとき、「この協力拠点をここに決めたのは私です。出身の村に一つくらいはいいことをしたかった」と



かつての協力拠点、環境林センター

もらしました。そのうえ初代の経理の邢雁俐さんは、支樹平さんの妻の妹だったのです。

支樹平さんはその後、河南省党委員会副書記（書記は李克強現総理）をへて、国家質量監督檢驗檢疫総局の局長になりました。大臣級で、地元の人たちの誇りなのです。

さきほどの説明には、私たちがすすんで土地を渡したかのようにありますが、ほんとに軽くやしくてしかたなかったのです。大同事務所の人たちは、私たち以上にその気持ちが強くて、武春珍元所長なんかは、足を向けようとしません。

でも、こうやって市民の憩いの場になり、私たちの苗木が大きく育っているのをみて、いまではよかったなあと、しみじみ思います。そのことを話すと、武春珍さんは、かならず行きます、と約束しました。（つづく）



記念碑を囲んで記念撮影



紫陽花からカメムシまで～六甲自然観察会

池田 利行（大阪府大阪市）

7 月 7 日、GEN 自然と親しむ会「六甲山自然観察会」がおこなわれ、14 名が参加しました。

例年この時期梅雨の真っ盛りで雨の多い時ですが、近畿方面ではさほど降らない状況で、今日七夕の日も快晴の一日を六甲山で GEN の皆さんと迎えようとしています。

六甲駅からバスとケーブルを乗り継いで六甲山上へ到着し、そこから 30 分弱の道のりを歩いて六甲山ガイドハウスへ行きました。急なケーブルの車窓から顔を覗かせると、樹木の間からたくさん紫陽花が目に入ってきました。またハウスまでの道程にも色んな種類の紫陽花が咲き誇っていました。

午前 11 時の定刻前に到着したので予

定より 15 分早くガイドを始めて頂きました。ガイドマップをいただき、ガイドの N さんとところどころで植物についての特徴や言われ等を話していただきました。植物観察で重要な事はその植物に手を触れたり、匂いをかいだりして自分の体で覚える事が重要、と話されていました。確かに葉っぱ一枚一枚手触りが異なり、鼻を近づけてみると、好き嫌いの香がよくわかりました。これからはただ名前を覚えるだけではなく、体で覚えていきたいと思いました。また、自然の植物の花の色は生えている下の腐葉土によって色が変わ

黄土高原史話〈94〉

東魏・北齊の仏教界（中）

この稿、ふたたび北齊初代の文宣帝（在位 550 ～ 559）から始めたい。それというのも、本シリーズ〈91〉で述べたところを補う必要があるからだ。

唐・李百葉の『北齊書』文宣帝紀によると、初めは政事に熱心で、国は治まり敵に勝ち、威は内外に振るったが、「六、七年後、功業を以て自ら矜り、遂に」連日酒に溺れ、ほしいままに淫虐・暴行、「末年に至り」幻覚・幻聴に悩まされ、31 歳で死去した、と。また、唐・李延寿の『北史』齊本紀も、『北齊書』に輪をかけて、帝の桀・紂（暴虐無道の夏と殷の王）ぶりを描いている。

ところが文宣帝には、まったく別の一面があるようだ。

唐・道宣の『続高僧伝』巻 24 曇頭伝にいう。

文宣禪りを受け、齊祚（齊国のさいわい）大いに興るに及び、天保年中（550 ～ 559）、釈（＝仏教）・李（＝道教）の二門、交ごも優劣を競ふ。

……（中略）……

時に齊境一心に仏を奉じ、国に両事なし。

文宣帝の即位の初め、仏・道二教が争っていたので、帝は両者に議論させ

（✓）わると教えていただきました。N さんは園芸種の花の色が統一された原色であることに幻滅し、野山に入り自然界の花の色の豊かさを知り感動し、ボランティアガイドの活動を始められたそうです。自然界の花の色は微妙に違うものが多くあるそうです。

12 時を過ぎるまでガイドをしていたら、最後に見事に咲き誇っているヤマボウシの説明を受け終了となり、昼食休憩に入りました。昼食が済むとセンターの展示室を見学しました。

広場に戻ると O さんの肩に美しいカメムシが付いていました。M さんに伝えようと「どこどこ」と喜んで近づき両手で捕まえました。「ヤッター、写真撮った」とカメラを片方の手で構え左手を小指から 1 本 2 本 3 本目と人差

谷口 義介（GEN 会員）

た。その結果、裁断により道教は排されて、宗教界は仏教一色に塗りつぶされた、と。もちろんこれは帝の意思に出たとはいえ、仏教が栄えた北魏→東魏の伝統をふまえ、崇仏家だった亡父・高歓に倣ったものと考えてよい。

かくして、北齊の鄴の仏教界は空前の盛期を迎えることになる。

たとえば、年 15 で出家した靖嵩（537 ～ 614）が、郷里の河北省涿県（北京の近く）を後にして鄴の都に来てみれば、そこには 4,000 の寺があり、8 万人の僧尼がいて、200 余りの仏教講座、聴講する者 1 万人、という状態だった、と（『続高僧伝』巻 10 靖嵩伝）。ただし、これらの数字は切りが良すぎるし、だいいち北魏の洛陽の 1,367 寺（東魏・楊街之『洛陽伽藍記』巻 5）と比べても、北齊の鄴に 4,000 寺というのは多過ぎよう。話半分として、せいぜい 2,000 寺くらいが妥当なところか。

このように文宣帝下の天保年間、北齊の鄴は北魏の洛陽をも凌ぐ仏教都市になっていた。では、自らが現出したこうした活況を当の文宣帝はどう見ていたか。

前回述べたように、北魏の洛陽から東魏の鄴では、坐禪・誦経（お経を唱

える）する者は少数派で、各種仏典の総合研究をする学派仏教が主流を占めた。ところが文宣帝は、禪に甚だ好意的であつたらしい。

『続高僧伝』巻 16 僧稠伝によると、僧稠（480 ～ 560）は仏典を読んで 28 歳のとき出家、都市で学僧としての名声を求めず、山林修行を続けてきたが、天保二年（551）、文宣帝は僧稠に懇請し、40 日間禁中にあって禪法を授かった。そして菩薩戒法（大乘の菩薩が受持すべき戒律）を受け、自ら「酒を断ち肉を禁じた、と。同六年には、「民に勅して齋戒せし」めた、とも。

このように禪に入れ込んだ崇仏家の文宣帝と、前掲『北齊書』や『北史』が伝える惑乱天子のイメージとは、あまりに異なっているのではないだろうか。あるいは治世の六、七年を境に、前者から後者へと人格が激変したのか。ちなみに両書には、「十年（560）二月丙戌、帝 甘露寺に於て禅居深観す」とあるように、最晩年にも禅観を行じている。おそらく、相い矛盾するような二面性をもっていたのだろう。

それはともかく、（以下、次号）

写真、写真のあらし、登っては降ろされ撮られの繰り返しに「少し弱ってきたん」との声に M さんは、どれどれと手に取り「あれ、裏の足のほうも綺麗」と言って弱ったカメムシをひっくり返し写真に撮っていました。

ようやく解放されたカメムシは樹の上方へ帰っていきました。



情報ひろば
いっしょなかたち

京都大学アフリカ地域研究資料センター
公開講座「アフリカから学ぶこと」

シリーズ
いま私たちにできること

- 内容：第1回アフリカをつくる：ものづくりの営み 10月26日（土）高橋基樹氏／第2回アフリカを繋ぐ：住民との道直しから 10月30日（土）木村亮氏／第3回アフリカを癒す：健康とは何か 12月21日（土）新福洋子氏／第4回アフリカを食べる：グラスカッターの家畜化 2020年1月18日（土）村上美穂氏／2月15日（土）アフリカを歩く：山・砂漠の自然と人と 2月15日（土）水野一晴氏 時間はすべて15時～17時
- 会場：京都大学稲盛財団記念館3階大会議室
- 受講料：1講座1,000円（5講座4,000円）
- 定員：80名（先着順）
- 問合せ・申込み：名前、ふりがな、住所、e-mailなどの連絡先、受講希望講座を電話、ファクス、e-mailのいずれかでお送りください。（〒606-8501京都市左京区吉田下安達町46 京都大学アフリカ地域研究資料センター公開講座係 tel. 075-753-7803 fax. 075-753-7831 e-mail: manabi@af-

*当欄掲載のイベント情報は情報提供を受けた時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

rica@gmail.com)

ffpri.affrc.go.jp)

森林総合研究所関西支所
公開講演会

もり
森林の小さな生き物たち

- 普段あまり注目されない森林の小さな生き物にスポットライトをあて、どんな生き方をしているかをご紹介します。
- 日程：10月30日（水）13時30分～16時30分（受付13時～）
- 会場：龍谷大学響都ホール校友会館
- 参加費：無料
- 講演：「2ミリ以上は大型です～小さいけど多様な土の中の動物たち～」長谷川元洋氏（同志社大学理工学部教授）「森林はアリとともに」濱口京子氏（関西支所生物被害研究グループ主任研究員）「線虫という生き物～森林昆虫を利用する線虫～」神崎菜摘氏（関西支所生物多様性研究グループ主任研究員）
- 問合せ・申込み：10月23日までに電話、ファクス、e-mailで所属、氏名、連絡先をお知らせください。森林総合研究所関西支所 地域連携推進室（〒612-0855京都市伏見区桃山町永井久太郎 68 tel. 075-366-9905 fax. 075-611-1207 e-mail: fsm-ren@

10.5 南京の記憶をつなぐ2019 結成の集い
日本人の知らない
中国人の“こころ”

一周恩来の言葉を間近に聞いてー

- ハルピンで生まれ育ち、帰国後中国要人との通訳経験から知った「中国人のこころ」についての講演です。
- 日時：10月5日（土）18時30分～（18時開場）
- 場所：国労大阪会館3階大会議室（大阪市北区錦町2-2 JR天満駅北側）
- プログラム：1. 代表あいさつ 2. 講演「日本人の知らない中国人の“こころ”」 3. 「南京の記憶をつなぐ12月の集会を作り上げましょう」の呼びかけ 4. 「南京の記憶をつなぐ2019」のご案内
- 講師：戸毛敏美さん（関西外国語大学参事）
- 参加費：500円
- 主催・問合せ：南京の記憶をつなぐ会 連絡先 銘心会南京（090-8125-1757）団体：NPO大阪府日本中国友好協会、大阪白猫犬会、関大校友連絡会、日本中国友好協会大阪府連合会